

ウィーン国立歌劇場の歴史に触れる - そのレパートリーを知るには -

樋口眞規子

Chronik der Wiener Staatsoper,
1869 bis 2009 :

Aufführungen, Besetzungen /
zusammengestellt von Andreas
Láng und Oliver Láng.

v. 1: Werkverzeichnis

v. 2: Künstlerregister

Wien : Löcker, c2009

請求記号●X-081/L/1-2



ウィーン国立歌劇場は、音大生なら声楽専攻以外にも知らない人はいないであろう世界で最も有名な歌劇場のひとつです。9月から6月のシーズン中には50を超えるオペラやバレエ作品、300回以上の公演が行われ、また、公演期間中には、ライブストリーミング放送が行われるので、自宅にいながらにして、ウィーンでのオペラ公演を楽しむことも可能です。

今回ご紹介するのは、そのウィーン国立歌劇場の歴史の一端に触れることのできる参考図書です。劇場スタッフの編纂による本書は、書名が示しているように、宮廷歌劇場として開場した1869年から2009年5月まで140年間の公演記録の集積です。これまで、歌劇場は、先行する資料として“Wiener Staatsoper 1945-1980”(Die Staatsoper, 1981)、“Chronik der Wiener Staatsoper 1945 bis 1995”(A. Schroll, c1995)、“Chronik der Wiener Staatsoper 1945 bis 2005”(Löcker, c2005)を出版しています。ですが、それらはいずれも対象が1945年以降に限定されていました。それに対し、本書は開場時の1869年(6月から。残念ながら柿落し(5/25)の演目《ドン・ジョヴァンニ》については未記載)から2009年まで、つまり歌劇場の歴史ほぼ全部をカバーした充実した内容になっています。歌劇場の歴史を記録し、かつ公開する姿勢が一貫して引き継がれています。

本書は、第1部が「作品名目録」、第2部が「人名索引」の2冊で構成されています。第1部「作品名目録」の記載事項を見てみましょう。配列はABC順です。

タイトル、作曲者

公演日(初演と最新公演)

演出(年月日と主なスタッフ、キャスト、公演回数)

各演出による公演の年月日と主なスタッフ、キャスト

試しに《ばらの騎士》の項目を見ると、1911年4月8日から2009年4月23日までに949公演が行われ、演出は、7回変わっていることがわかります。各演出による公演状況を見ると、1911年から

1929年にかけては、元帥夫人はルシー・ヴァイト(Lucie Weidt)が70回演じていること、そして、作曲者であるリヒャルト・シュトラウス(Richard Strauss)自身の指揮も27回、といったことがわかります。今度は、第2部「人名索引」を見てみましょう。こちらも配列はABC順で、歌手だけでなく、演出家、指揮者も記載されています。注意が必要なのは、1869-1944年と、1945-2009年の二部に分かれている点です。戦前・戦後に活躍した人物については、2カ所、調べる必要があります。記載事項は、

人名

演目(ABC順) 役割/役名 回数 公演期間

例えばグスタフ・マーラー(Gustav Mahler)の項目を見てみると、1897年5月の初登場以来、58演目の指揮をしていることが一覧できます。第1部の目録に戻って作品名で調べれば、その公演の主なスタッフ、キャストがわかります。

こうして見てゆくと、各公演の内容をもっと詳しく知りたくなるし、2010年以降の公演についての情報も知りたくなりますね。そのように図書では得られない情報は、ウィーン国立歌劇場のホームページをあわせて利用するとよいでしょう。以下に、検索方法を簡単にお知らせします。

ウィーン国立歌劇場 Wiener Staatsoper のホームページのメニューから Spielplan & Ticket を選び、さらに Archiv をクリックすると、すぐに検索画面が表示されます。ここでは、1869年6月3日以降のオペラの作品のデータ(1955年以降はオペラとバレエのデータ)を調べることができます。「人名」、「作品名」、「役名や指揮、台本、衣装デザイン等の役割」、「日付(1869.6.3～現在)」といった項目を、単独あるいは組合わせて検索可能です。表示された検索結果から任意の作品名をクリックすると、個々の公演について詳細なデータが表示されます。人名に関しては、図書では調べられなかったスタッフについても検索ができます。また、1945年はいつから公演を再開したのだろうか?とか、去年の11月の演目は?など、図書では調べるのが難しかった日付による検索も便利です。

<https://archiv.wiener-staatsoper.at/>

データ収録量や詳細さ、利便性は、インターネットでの検索の方が上回っていると言えますが、特定の作品や人物の公演記録についてざっと一覧したい場合は、冊子の方が見易い利点があります。調べる目的に応じて、本書とホームページ上の情報とを併用すると良いでしょう。